



© 環境省

エコアクション21

認証番号0006252

# 環境活動のまとめ

OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2024

この報告書は2023年度の方針にそった  
主な環境活動についてまとめたものです

# 「環境活動のまとめ」発行にあたって

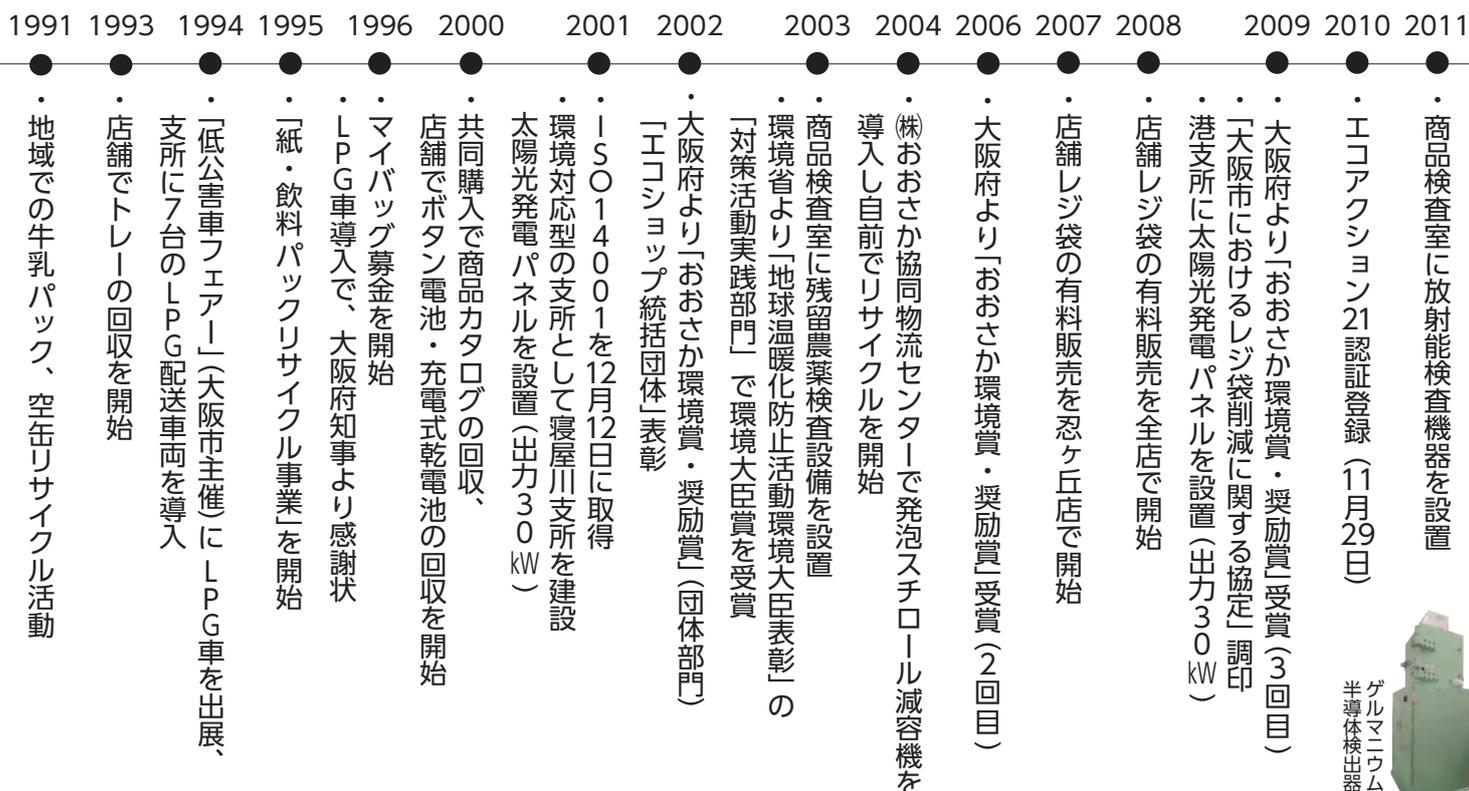
2023年11月30日から12月13日まで、世界の国々が気候変動の問題を話し合う「COP28」がUAEのドバイで開催されました。この会議で大きな焦点となったのは、パリ協定で掲げられた目標達成に向けて、世界全体の進捗状況を評価する「グローバル・ストックテイク」が初めて実施されたことです。その成果として以下の決定文書が採択されました。

- ・パリ協定の、「世界の気温上昇を1.5℃に抑える」という目標達成まで隔たりがあること。
- ・その目標に向けて行動と支援が必要であること。

温室効果ガス排出削減を指す「緩和」については、対策強化として、まず目標を達成するために2025年までに排出をこれ以上あげないようにし、2030年までに43%、2035年までに60%を排出削減する必要性が認識されました。また、パリ協定と各国の異なる状況や道筋、アプローチを認識したうえで、世界全体のとりくみを推しすすめることを呼びかけるとされています。

私たちは生命や暮らしを守るために、これ以上の温暖化を食い止める行動を大胆に起こすことを求められています。

## これまでの主なあゆみ



# 「子どもたち・未来のために、美しい地球のために」

子どもたちに自然環境のすばらしさを伝えていくことは、大人としての課題です。  
未来を生きる子どもたちに美しい地球を渡せるよう、生協として地球温暖化防止の社会的責任を積極的に果たし、事業と活動をすすめていきましょう。

2024年5月

環境マネジメント推進委員会





# 環境マネジメントシステムを活用して 事業をすすめています

## 環境方針

### 基本理念

おおさかパルコープは、持続可能な循環型社会の実現を目指し、環境問題を重要な課題と位置付け、組合員とともに環境保全活動に積極的に取り組みます。

### 基本方針

おおさかパルコープは、組合員を対象とした食品など生活関連の商品供給事業及び共済、福祉事業や旅行、チケット、暮らし関連などのサービス事業を行っています。こうした事業活動から発生する環境に大きな影響を及ぼす項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で環境目標、環境活動計画を定めて取り組み、環境負荷の軽減と汚染の予防、生物多様性の保全への配慮、環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

1. 環境に配慮した商品やサービスの取扱いと普及をすすめます。
2. 地球温暖化防止のために、CO<sub>2</sub> 排出量削減に取り組みます。
  - ・積極的に省エネルギー機器導入に取り組みます。
  - ・電気、ガスの使用量削減に取り組みます。
  - ・配送効率や運転技術の向上、エコドライブの推進で車両燃料の削減に取り組みます。
3. 廃棄物の削減、リサイクルに取り組みます。
  - ・紙などの資源を効率的に使用し、使用量削減とリサイクルに取り組みます。
  - ・店舗では食品廃棄ロス基準を守り廃棄物の再生利用等に取り組みます。
  - ・組合員とともに、容器包装、商品案内チラシなどの回収リサイクルや、買い物袋持参に取り組みます。
4. 資源の有効活用、節水に取り組みます。
5. 商品検査室で検査に使用する化学物質の使用量確認を行い、適正管理を推進します。
6. 環境関連の法令、条例及び受け入れを決めたその他の要求事項を遵守します。
7. 組合員による環境活動を積極的に支援し、持続的発展を可能とする循環型社会構築に向けた社会的活動に広範に取り組みます。
8. 以上の活動を進めるために、職員に対する環境教育と環境コミュニケーションを積極的にすすめます。

この環境方針はおおさかパルコープの内外に公開するとともに、環境活動の取り組みの状況について定期的に公表します。

2001年7月21日制定  
2021年6月8日改定  
生活協同組合おおさかパルコープ

理事長 奥井 和久

事業活動にともなう環境負荷を最小限にとどめることを継続的にとりくむため、環境省が定めた環境マネジメントシステム「エコアクション 21」を活用し、各事業所ごとに立てた計画に対して、とりくみの進捗と目標が達成できているか、外部の審査機関の審査・認証をうけています。



2023年度も2024年1月に3日間、8事業所の審査をうけました。  
環境へのとりくみが評価され「**適合**」の結果でした。



環境省  
エコアクション21  
認証番号 0006252

# 2023年度 主な環境目標の実績と評価



事業所や部署ごとに、2023年度は25項目の目標を持ちました。  
19項目は目標を達成したり実施することができましたが、6項目は目標を達成することはできませんでした。毎年目標の見直しを行いながらとりくみを継続します。

## 活動と評価

### 電気使用量



前年対比  
**101.0%**

電気の使用量は、樋之上支所と東住吉支所の稼働にともない増加しました。2023年2月にリニューアルしたなお店では、冷蔵庫や冷凍庫の入れ替えなどにより、大きく減少しました。

### ガス使用量



前年対比  
**93.1%**

ガスの使用量は、京橋事務所の空調と、福祉施設での使用量の管理がすすみ、減少しました。

### 水道使用量

ここから  
ミストが出ます



前年対比  
**101.3%**

水道の使用量は、樋之上支所と東住吉支所の稼働や、店舗・支所施設の故障などにより、増加しました。

### ハート栽培 農産物の 取り扱い



112品目の認証と  
162件の  
お届け前検査

ハート栽培農産物の実態把握を産地点検・農薬検査などを通して実施しています。環境に優しい農業生産の推進は、産地の環境保全にもつながるとりくみです。

### 食品ロス削減のとりくみ

- 1、野菜くずや消費・賞味期限の切れた食品
- 2、調理に使った食用油
- 3、魚のアラ
- 4、畜産品の脂



すべての合計で  
**約270トン**

全店で食品ロス削減のとりくみをすすめています。

### 燃料使用量の削減



燃料使用量前年対比

**98.8%**

車両台数前年対比

**106.0%**

車両の更新による燃費向上と電気自動車10台の導入などにより、車両台数は前年対比106.0%と増えていますが、燃料使用量は前年対比98.8%とおさえられています。

環境にやさしい電気自動車（営業用）を7支所に計10台導入しました。また、2023年3月より稼働した樋之上支所や11月より稼働した東住吉支所には将来を見据え、支所倉庫の各出荷ホームに電気自動車専用の充電用コンセントを設置しました。今後も計画的に入れ替えを行っていきます。

#### ■ 電気自動車



枚方支所

#### ■ 電気自動車専用コンセント



樋之上支所



# 地球温暖化防止のためCO<sub>2</sub>排出量削減の とりくみをすすめています

2023年度パルコープのCO<sub>2</sub>排出総量は約12,222トンとなり、前年対比で100.6%と増加しました。

また、原単位\*でも20.2トンから20.5トンに増加しました。

\*原単位：CO<sub>2</sub>排出量を供給金額で割り算して、CO<sub>2</sub>排出量を算出し、削減にとりくむ方式です。

毎年、設備改善と運用管理の強化でCO<sub>2</sub>の排出量の削減にとりくんでいます。多くのCO<sub>2</sub>を排出する事業者の社会的責任として、これからも削減のとりくみを積極的にすすめていきます。

日本生活協同組合連合会ではCO<sub>2</sub>排出量の総量削減をすすめるため、全国の生協と協力して「温室効果ガス総量削減計画」をすすめています。「2030年度に全国生協のCO<sub>2</sub>排出量を2013年度対比で40%削減」を目標としています。

全国生協のCO<sub>2</sub>排出総量削減目標

2030年度に2013年度対比で**40%削減**

## CO<sub>2</sub>排出量の抑制 経年の推移と評価

電気使用CO<sub>2</sub>排出係数：0.423kg-CO<sub>2</sub>/kWh  
(日本生協連、全国統一CO<sub>2</sub>排出係数)

2023年度  
パルコープの  
CO<sub>2</sub>排出総量  
約**12,222**  
トン



## 太陽光発電設備について



(株)おおさか協同物流センター

再生可能エネルギーはCO<sub>2</sub>の排出量を大幅に削減し、日本のエネルギー自給率を上げることにつながります。現在、パルコープでは(株)おおさか協同物流センター(655kW)を含めて785kWの太陽光発電が稼働しています。年間発電量は合計837,013kWhとなり、CO<sub>2</sub>の排出量で約354トンの削減につながっています。

年間発電量  
**837,013**  
kWh

CO<sub>2</sub>排出量の  
削減効果  
約**354**  
トン分

設備	太陽光発電	容量
	北枚方支所	50kW
	寝屋川支所	50kW
	港支所	30kW
	(株)おおさか協同物流センター	655kW



電気使用CO<sub>2</sub>排出係数：0.423kg-CO<sub>2</sub>/kWh  
(日本生協連、全国統一CO<sub>2</sub>排出係数)

# パルコープ全体で環境に配慮した とりくみをすすめています



## ●共同購入(班配・個配)事業

事業活動にともない排出される容器包装(たまごパックや牛乳パック、商品お届け袋)、商品カタログなどのリサイクルにとりくんでいます。



商品カタログ  
回収量  
約**3,672**  
トン

### ■支所でのリサイクルの様子



配送時に組合員さんから回収した商品カタログ(左)と商品お届け袋(右)



商品カタログは古紙原料としてリサイクルされています。2023年度で約3,672トン  
を回収し、再資源化につながりました。

## インターネット注文のeフレンズ登録を すすめることでペーパーレスを推進します



eフレンズに登録の方で、インターネット注文をされる方は商品カタログや注文書を利用されない場合が多く、「毎週の配布はらない」との声をうけて、組合員さん自身で発行の停止ができるようにしています。

2024年4月  
eフレンズ登録人数  
**176,318名**

eフレンズを  
登録されている方のうち、  
73,819名が  
商品カタログのお届けを  
停止されています。

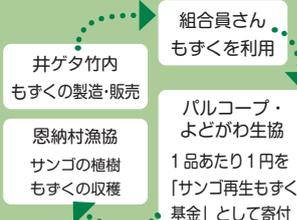
## もずくを食べてサンゴが育つ海づくり サンゴ再生もずく基金



2023年度  
植樹  
**80本**



### サンゴ再生もずく基金



～サンゴ再生もずく基金～

### 「恩納村産 味付糸もずく」など

産地・メーカー・生協・組合員が手をつなぎ、  
もずくの育つ里海を守るとりくみです。

2023年度の恩納村漁協のもずく収穫量は、  
1,303トンでした。

パルコープ分のサンゴの植え付け本数は  
累計で865本となりました。

## 🍅 耕作放棄地再生活動 with 紀ノ川農業協同組合 🍅

パルコープでは、2019年1月より耕作放棄地再生活動にとりこんでいます。

### ビニールハウスの再生にむけて

このビニールハウスでは、東日本大震災で避難して来られた方がトマトを栽培されていましたが、体調を崩され手つかずの状態となっていました。紀ノ川農協さんのトレーニングファームで現在研修中の若いご夫婦が、このハウスで2024年度より野菜を栽培されることとなったため、紀ノ川農協の職員さんと一緒にビニールハウスの再生活動にとりくみました。



再生活動にとりくむ前のハウス内の様子



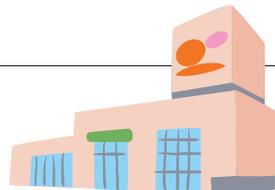
古くなった畑に敷くビニールや雑草などを除去します



すっきり綺麗になりました！この後、天井のビニールを張り替えていきます。

## ●店舗事業

お店では販売数の管理徹底など廃棄物を出さない工夫をし、残った食品は有効利用する食品ロス削減のとりにくみをすすめています。



食品  
リサイクル  
約 **139**トン

1、食品リサイクル  
(野菜くずや消費・賞味期限の切れた商品) → 約139トン

2、調理に使った食用油 → 約9トン

3、魚のアラ → 約99トン

4、畜産品の脂 → 約23トン



食品リサイクルは2023年度で約139トンがリサイクルされました。食用油は車両燃料に、野菜くずや魚のアラ、畜産品の脂などは、飼料原料や油脂として再利用されます。

店舗のとりにくみとして、午前中に調理する商品を来店状況に応じて準備をし、夕方に向けても調理したての商品を提供することで廃棄する量が減少するようにすすめています。

## マイバッグのとりくみ

2020年7月1日からレジ袋が有料化されました。パルコープでは2024年3月時点のマイバッグの持参率は88.6%で、レジ袋は約451万枚削減されていることとなります。毎年新しい組合員さんを迎える中、マイバッグ持参運動を地道に続けていることが、高い持参率の維持につながっています。



### レジ袋について

2021年3月より、レジ袋をポリエチレン製の袋から、バイオマス\*25%使用の袋へと変更し、再生利用可能な有機物の構成を高めています。なお、マイバッグ持参をすすめるため、有料（1枚5円）での提供は継続しています。組合員みなさんには、引き続きご協力をお願いいたします。

\*バイオマス：動植物から生まれた再利用可能な有機性（石油などの化学燃料を除く）の資源のことです。

3Rで資源の有効活用を  
すすめています



リデュース  
Reduce



リユース  
Reuse

リサイクル  
Recycle

今後も包装資材の代替えや不必要なものの廃止、分別やリサイクルなどを通し、消費者の意識と社会システムの整備に向けてとりくみを続けます。

リサイクル品2023年度回収量

回収量

商品カタログ		3,672t
共同購入	紙飲料パック	62,340kg
	たまごパック	40,340kg
	商品お届け袋	45,150kg
店舗	紙飲料パック	15,108kg
	たまごパック	10,547kg
	ペットボトル	34,237kg
	ビン	53,485kg
	カン	8,855kg
	食品トレー	41,097kg
	乾電池類	2,153本
	蛍光灯管(大阪市内)	2,834本
共同購入+店舗	発泡スチロール	19,360kg
	ダンボール	592t



の回収  
ぼりボ  
リボク  
旗ッ色  
がクの  
目ス  
印と  
です♪



回収ボックスに集まった食材



FOOD BANK  
KANSAI

HOME

- (株)おおさか協同物流センターではフードバンク\*活動への商品提供を行なっています。フードバンク関西へは3週間に1回のペースで2023年度は関西の168団体の福祉施設に、6,748kgの提供を行いました。
- 「パルコープこども食堂フードバンク」では、パルコープエリア内の85団体90ヶ所の子ども食堂と6つのシングルマザー支援団体(2024年3月現在)に食材をお届けしています。

\*フードバンクとは、包装の傷みなどで、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなるなど、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、必要としている人や団体に無償で提供する活動です。



# 1日エコライフにとりくみました



今回参加人数  
**2,369名**  
(組合員+職員)  
CO<sub>2</sub>削減量  
約**1,335kg**

## 『コープみんなでエコ! 2023』のとりくみ結果

私たちの暮らしの中から二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)をなるべく出さないことが、地球温暖化防止につながります。エアコンの温度管理や買物袋の持参、ゴミの分別やリサイクル、車は使わず徒歩での外出など毎日の暮らしの中で環境を守るとりくみにつながることはたくさんあります。

組合員さんには毎年、OCR アンケートなどを通じて、身近にできることにチャレンジしていただいています。1日エコライフには職員も一緒にとりくみ、合計で2,369名が参加、CO<sub>2</sub>排出量で約1,335kgの削減につながりました。



「冬の1日エコライフにチャレンジしましょう」  
ぱるタイム OCR アンケート

## 1日エコライフに参加された方の声や、工夫されたことを紹介します♪

建物全体を暖めるのではなく、防寒着などで温めることをやってみて電気代が減りました。一人ひとりの小さな意識から世界は変えると思いました。



地球の温暖化がすすんできているので、CO<sub>2</sub>削減に もっと気が付いて生活していかないといけないなと思いました。

年に一度とりくむことで、少しずつ期間以外にも意識することになるので良いと思いました。

日々の積み重ねで今後も意識を高めていきたいです。

## 地域や行政と連携し、様々なイベントに参加・協力しました

### ライトダウンキャンペーン

環境省では2003年より地球温暖化対策のため、ライトアップ施設や家庭の照明の消灯を呼びかける「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」を実施してきました。

パルコープでも家庭や職場において、周りの電気を消すことで、地球環境の大切さを再確認し、地球温暖化対策について考える契機として、夏至の6月21日とクールアースデー\*の7月7日に、午後6時から午後9時で各店内の一部の消灯を行いました。

\*クールアースデー：毎年7月7日の七夕の日に、日本各地で開催される「地球環境について考える日」のことです。

▶ つるみ店



▶ 星ヶ丘店



▶ 粉浜店



## 打ち水大作戦

2023年度も枚方市では地球温暖化対策協議会からの要請をうけ、8月に枚方市の全店で「打ち水大作戦」にとりくみました。来店いただいた組合員さんより「涼しくなっているね」「風流やね」などの声をいただきました。



ながお店



星ヶ丘店



西くずは店

## 家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ

全大阪消費者団体連絡会などが呼びかけて実施した「家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ」にパルコoopから26名の組合員さんが参加しました。

参加の組合員さんからは「子どもと一緒に普段より分別するようになりました。改めて数を見て、たった3日間でも多いと感じました。環境のことを考える良いきっかけになりました。」などの感想が寄せられました。軽くて丈夫で衛生的など、良い点もあるプラスチックですが、燃やせばCO<sub>2</sub>を出すなど環境への影響を知るきっかけとなりました。



## 省エネチャレンジノート

地球温暖化防止に身近なところからとりくむ、特定非営利活動法人地球環境市民会議（CASA）主催の「省エネチャレンジノート〈2023年夏〉」には、2か月版に23名、1週間版に27名、子ども版に5名が参加しました。

参加の組合員さんからは「子どもたちと今回の結果を見て、省エネについて話しあって改善していきます。」「日々の小さなチャレンジが実を結ぶことを実感できる良いとりくみですね。」などの感想が寄せられました。



※写真は「省エネチャレンジノート〈2023年夏〉」の冊子です。

# OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2024

リアルに協同発電しよ・ながお  
NPO法人 リアルにブルーアースおおさか

みんなの力で  
作りました

一般家庭の年間消費電力の  
約6軒分を発電しています

のべ270名の協力による  
市民共同発電所です

2014年1月29日 売電スタート

電気使用のCO<sub>2</sub>排出係数 0.423kg — CO<sub>2</sub>/kWh  
(日本生協連、全国統一CO<sub>2</sub>排出係数)

「自分たちで市民共同発電所を作ろう」とパルコープの組合員さんの中で立ち上げた『NPO法人 リアルにブルーアースおおさか』。2014年1月、ながお店の屋根に設置した20kWの太陽光発電設備では、2023年度は20,426kWhが発電され（一般家庭の6軒分）、火力発電で発電した場合と比べて約8.6トンのCO<sub>2</sub>排出を削減できました。2024年秋に、安治川支所屋上に2号機を設置予定です。

「リアルにブルーアースおおさか」  
ながお店屋根 太陽光発電設備

「リアルにブルーアースおおさか」の  
アースちゃん

## おおさかパルコープ 概要

2024年3月20日現在

名称 生活協同組合おおさかパルコープ  
設立 1991年3月2日  
職員数 フル職員1,051人、嘱託職員84人、定時職員1,683人  
供給高 591億円  
組合員数 447,526人

共同購入支所数 16ヶ所  
店舗数 9店舗  
組合員会館 4ヶ所  
組合員集会室 14ヶ所



大阪市都島区東野田町 1-5-26  
<https://www.palcoop.or.jp/>

2024年5月発行